

## 11. 山陽塩屋駅付近の見どころ

### <ジェームス山とグッゲンハイム邸>

須磨浦公園駅を出て、普段は水のない小さい川を渡る。これが、摂津国と播磨国の境界になってる境川。現在も神戸市須磨区と垂水区との境界になっている。山陽塩屋駅は相対式2面2線のホームをもつ高架駅。改札口は東側1階にあり1ヶ所のみ。基本的に窓口は無人化されている。神戸市統計書によると、2013年度の一日平均乗車人員は742人で、山陽電鉄全49駅中45位。上り下り各ホームと地上の改札口を結ぶエレベーターが設置された。

この出口は北側に面しており、道幅約2.5m程度。当然バスは入れないし、通常は車も侵入禁止。JR塩屋駅の改札へ向かうにはこの道路を80mほど東へ行った右側にある。この山陽の高架下と向かいあう面に、昔ながらの商店が数件ある程度の閑静な住宅地という感じ。



1930年ごろ貿易で財を成したジェームス氏が約25万m<sup>2</sup>の山林を取得。自宅とともに60棟以上の住宅を主として外国人向けに開発。のちに約20万m<sup>2</sup>を追加購入。一帯ジェームス山といわれ、外国人居留地のような感じであった。三洋電機の創業者井植歳男氏が後日買取、三洋電機の研究所などもあった。いまはその一角に井植記念館もある。(左図の案内図の左上部)



面白いのは、「ジェームス山」はスーパーマーケットのイオンや自動車学校「ジェームス山」など使われているが、神戸市垂水区塩屋町、青山台となっていて正式な地名にはなっていない。ジェームス山という山もない。現在のジェームス邸はレストラン、ウェディングなどに使えるが、車窓からは見逃しやすい。むしろ車窓から見えるのは下図のグッゲンハイム邸、旧後藤邸などの建物で塩屋の傾斜地の眺望の良いところにある。最近はこの傾斜地の東側(須磨浦公園側)にデザイナーズハウスが競うようにあるのも見どころといえる。

(宮本英希 記)

